

# 体験する文学—履修選択科目「人間と文学」での実践報告—

山口 裕美\*

## Experiencing literature:

### observations on students' activities in “Japanese People and Literature”

Yumi YAMAGUCHI

The purpose of this article is to show what the subject, “Japanese People and Literature” was like to students in 2017. The author set the topic, “for students to experience literature” and in the lessons they made groups of 3 – 5 students, read the play *Macbeth* by turns, summarized the plot, and gave presentations group by group. These activities aimed at PBL (Project-based Learning). In this article, these points will be focused on: how to decide the syllabus and the textbook, how to set the topic, and what kinds of activities students did in the class.

*Key Words:* Literature, Experience, Activities, Cooperation

## 1. はじめに

「人間と文学」は、本科4年生開講の履修選択科目である。筆者は、課題解決型学習（PBL）を意識した授業形態を2017年度の本科目で実施した。本稿の目的は、同年度に開講された本科目においての受講者の取り組みをまとめるものであり、授業計画のためのシラバス執筆の意図について、また、授業の実施方法および学生主体の活動について、を報告するものである。

## 2. 授業計画

### 2.1 シラバス作成

履修選択科目は、シラバス作成においては、受講者集団が確定していない。また受講者の人数が明らかでないため、授業形態などの詳細については、記載することは難しい。さらに、受講者の読書歴なども、予測することができない。

そのため、少人数であれ、多人数であれ、受講者に対応できる授業構成や、授業形態が求められる。そこで、講義を中心とした授業形態ではなく、受講者が主体的に参加できるグループ活動を取り入

れることを前提とし、到達目標のひとつとした。以下が、本科目の到達目標である。

- (1) 作家や作品に関する知識を獲得する。
- (2) 作品を鑑賞し、主題を理解できる。
- (3) グループ内での協力ができる。

(3)により、受講者は単独でなく、複数のほかの受講者と協力することが求められる。加えて、複数名で情報を共有することにより、国語的な読解力、読書の得意不得意を縮めることを期待した。また、次節において教材の選定について触れるが、教材は、戯曲であるため、セリフを読みあうという輪読形式がとりやすく、グループ活動が円滑に進めやすくなると思われた。

### 2.2 教材選定

近年、本科目では、日本文学作品が教材として取り上げられていた。筆者は、2017年度はじめて本科目を担当することになったが、専門はイギリス文学で、これまでは特に、韻文による作品を取り扱うことが多かった。

文学は、韻文と散文、さらには、詩、小説、戯曲もしくは評論などに分類される。学生にとって、「国語」の授業において、小説や評論、詩などは、義務教育期間からなじみがある。しかしながら、台本、もしくは実際に演じられる戯曲については、なじみが浅いと考えられる。

そこで教材選定において、できる限り、受講者にとって、これまでに体験が少ないと思われる戯

---

原稿受付 平成29年9月25日

\*総合理工学科 電気電子システム系

曲を選定することとした。加えて、イギリス文学において、戯曲を代表する作家ウィリアム・シェイクスピアの一作品を（和訳であれ）読んだことがあるという体験は、受講者にとって有益であると考え、『マクベス』を本科目では取り上げた。

数あるシェイクスピア作品の中でもなぜ『マクベス』であるのか。もちろん、ほかの四大悲劇やそのほかにもすぐれた作品がある。しかしながら、『マクベス』の特徴を挙げれば、シェイクスピア作品をはじめて読む場合に適した点が、いくつかある。

まず、選定理由のひとつとして、『マクベス』のあらすじが挙げられる。シェイクスピアの作品に限らず、文学作品とは、概して、ストーリーが複雑である。メインプロットの進行とともに、サブプロットが動き、一定のところで交差しながら、結末へとむかう。加えて、読者は数多くの登場人物を整理しながら読みすすめるのが、一般的である。その点において『マクベス』は、ストーリーが簡潔であり、主要な登場人物も多くない。そのため、多くの受講者にとって読みやすい作品であると考えた。

いまひとつの理由として、本作品はシェイクスピア作品のなかでもっとも短い戯曲である。本科目は、半期90分で完結する科目であるため、確実に作品を読了したうえで、受講者の評価をおこなわなければならない。そのため、不完全燃焼を避ける必要があった。

また、本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」であるため、授業時間外の課題を設定する必要があった。そこで、複数の文学作品のリストを参考に、読書を自学課題として設定した。

## 2.3 実施にあたって

実施にあたって、本年度の受講者は30名であったため、グループは3名—5名を想定し、授業概要を紹介するハンドアウトを作成し、配布した。内容は下記のとおりである。

テーマ：「体験する文学」

### (1) 授業内の活動

- ①この講義は、文学資料にもとづいたワークショップを中心におこなう。
  - ②時間中に取り上げる作品はウィリアム・シェイクスピア作『マクベス』（河合訳、角川文庫）とする。
  - ③グループ活動が中心で、グループごとに作品を読みすすめながら、要旨をまとめる。
  - ④まとめた要旨を発表する。
- これらの活動を15回中、9回実施することを予告した。

### (2) 授業外の活動

#### ①課題について

- ・シェイクスピア『アテネのタイモン』など
- ・ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』
- ・ジョージ・ゴードン・バイロン『マンフレッド』
- ・メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』
- ・チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』
- ・オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』
- ・オスカー・ワイルド『サロメ』
- ・ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- ・ジョージ・オーウェル『動物農場』
- ・ウィリアム・ゴールディング『蠅の王』
- ・アラン・シリトー『長距離走者の孤独』
- ・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』
- ・ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』

②上記の中から作品をひとつ選ぶか、これらの作家の作品を探してきて、読む作品について相談すること。

- (a) 作家の紹介をまとめる。
- (b) 作品のあらすじをまとめる。
- (c) 作品の本文中から気に入ったところを4か所以上挙げ、どのように感じたか書く。
- (d) これらを2000字以上でまとめる。(ワードで作成し、A4で2枚程度。40字×30行に設定すること。)(使用した訳本の出版社、出版年を記入すること。)
- (e) 作成した課題をもとにスライドを用意し、プレゼンテーションをおこなう。

この授業時間外の活動についても、授業初回時に提示した(授業時間外の活動は本稿では省略する)。

## 3. 授業の様子

### 3.1 受講者の状況

すでに触れたように、本科目は受講者の履修に対する動機がさまざまである。履修選択科目であるため、学生の受講希望調査のうえで、各科目の受講者数を調整するのだが、必ずしも第1希望の科目を受講するわけではない。そこで、受講者の文学に対する興味・関心を調査するために、簡易なアンケート調査をおこなった。項目には、下記のものが含まれている。

- (1) 「人間と文学」は、希望調査時に第1希望でしたか？(はい・いいえのみ)
- (2) 劇の台本を読んだことがありますか？(はい・いいえのみ)

これらの項目の質問の回答をまとめると、下記のとおりである（回答者 28 名）。

(1) 「人間と文学」は、希望調査時に第 1 希望でしたか？（はい・いいえのみ）

はい：いいえ（17：11）

(2) 劇の台本を読んだことがありますか？（はい・いいえのみ）

はい：いいえ：不明（6：20：2）

このように、6 割以上が、第 1 希望で本科目を受講しているものの、戯曲を読んだ経験がある受講者は 2 割程度である。

### 3. 2 学生の活動と PBL 的要素

では、ここで基本的な授業の流れをまとめる。

①	5 分	出欠確認と担当範囲の確認
②	45 分	<p>&lt;グループ活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ グループごとに輪読をおこなう</li> <li>▶ ホワイトボードを活用し、作品理解を確認するために要旨をまとめる</li> <li>▶ プレゼンテーション練習をおこなう</li> </ul> <p>*この間、担当者は、活動の様子をみながら適宜助言をおこなう</p>
③	30 分	各グループ 5 分程度でプレゼンテーションをおこなう
④	10 分	担当者による講評およびまとめ・次回の確認

②の活動において、戯曲をとらえるうえで、重要となる、<時間、場所、登場人物>を押さえたうえであらすじ（要旨）をまとめていった。

『マクベス』のあらすじそのものは、インターネット上を検索すれば、いくつも資料を見つけることができる。しかしながら、場面（幕・場）ごとの詳述は、ほとんど見つけられないため、受講者はグループ内で協力しながら作品を読解し、その回の登場人物や場面、前後のつながりなどを意識しながら、図 1 のように要旨をまとめ発表しなくてはならない。当然であるが、作品の解釈は読者の数だけ存在するので、それぞれの解釈をグル



図 1 授業中の活動

ープ内で共有し、そのうえで、発表用のまとめを作成していく。そのため、発表資料となるホワイトボードは、記述方法やまとめ方がグループごとに全く異なる。

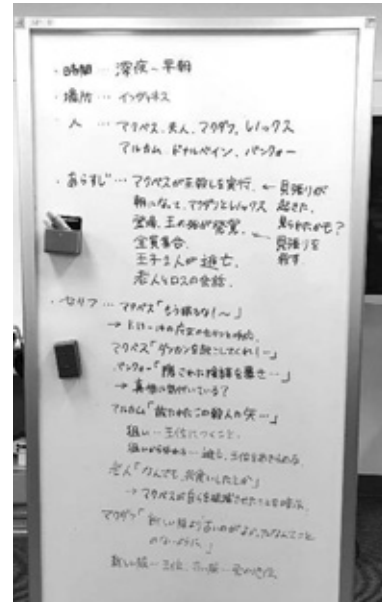


図 2 発表資料 (1)

図 2 と図 3、図 4 は、同一場面をまとめたものであるが、図 2 のグループは、本作品で何度も登場する「衣服」の比喩表現を意識していることが、うかがえる。このグループは、ホワイトボードへの書き込みに次のように引用している。「新しい服より古いのがよかったなんでことのないように。(62)」そのうえで、「新しい服・・・王位、古い服・・・元の地位」と解説を加えて、解釈をおこなった。

一方で、図 3、図 4 のグループは、同様に何度も登場する「眠り（休息）」について、意識していることがわかる。ホワイトボードへの引用としてマクベスの

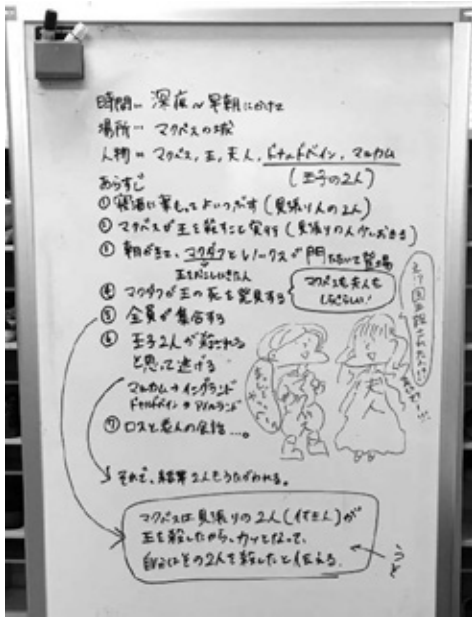


図3 発表資料 (2)-1

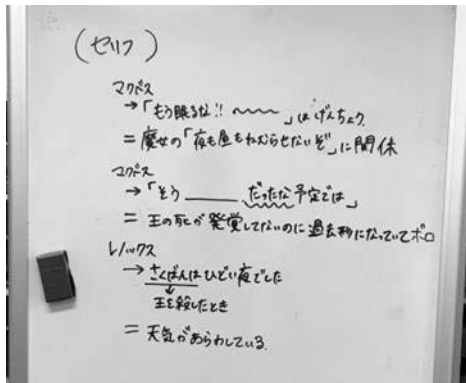


図4 発表資料(2)-2

「もう寝るな! (46)」というセリフを作品冒頭の魔女の予言であるセリフ「夜も昼も眠らせないぞ (13)」と関連づけながら、マクベスにとっての「眠り」の意味を重要なものとして取り上げた。

このような発表資料をホワイトボード上に作成し、プレゼンテーションをおこなうことを授業内の課題として、問題解決を受講者間でおこなえる環境を整えた。

### 3. 3 活動の評価

これらの活動の評価については、小テストをおこなった。なお、教材の文庫本は持込み可能である。

次の選択肢を参考にし、A4 : 1 枚の中にまとめなさい。また、テーマ設定は選択肢のままでも、別のテーマを設定してもかまいません。(50分)

- (1) 魔女のセリフ「きれいは汚い、汚いはきれい」が示す、登場人物の活動や心情描写をまとめなさい。
- (2) 衣裳による表現(比喩)と登場人物の考えや行動に注目し、人物の感情や葛藤を整理しなさい。

- (3) 作品のなかでなされる予言とその成就、もしくは行動への宣言と実行について取り上げ、その皮肉さやイメージについてまとめなさい。
  - (4) マクベス夫人の正義と罪の意識についてまとめなさい。
  - (5) 作品の進行によって変化するマクベスの性格についてまとめなさい。
- \*必要に応じて、図や挿絵、本文の引用(ページ記入)ができます。

この小テストにおいて、受講者全員が十分な記述をしていた。多くの受講者が選択肢(5)を選び、つづいて、(1)、(4)、(3)を選ぶことが多かった。(2)を選択する受講者はいなかった。また、これらの選択により、受講者の読書志向の興味・関心がうかがえた。(2)については、作品の詳細を読み込む必要があるため、選択を避けた可能性がある。

## 4. おわりに

本授業では、「文学」を「体験する」取り組みを中心として、受講者の活動とそのなかで協力関係が築けるように授業を構成した。

ここで、校内で実施されている「授業評価アンケート(講義)」での「II. あなた自身についての質問」の(11)、(12)、(14)についての平均を紹介したい(各項目最高値5)。

	機械	電気電子	電子制御	情報
(11)	4.000	3.800	4.286	4.875
(12)	4.333	3.700	4.286	4.500
(14)	3.333	3.500	3.857	4.875

- (11) この授業の内容をどの程度理解しましたか。
- (12) あなたは授業中に熱心に取り組みましたか。
- (14) この授業によって、あなたはこの教科に興味や関心を持ちましたか。

これらの項目のなかで、(11)において、基本的な理解に達したこと、(12)の授業内での取り組みにおいて、受講者にとって十分な活動が積極的にできていたことが、うかがい知れる。

今回の取り組みは、なじみのない文学を体験することを主眼とした。この体験が、学生にとって、新たな可能性へとつながれば幸いである。

### 参考文献

- 1) シェイクスピア: (河合祥一郎訳)『マクベス』角川文庫, 2009年.